

IMF サーベイ

IMF 専務理事アジア訪問

IMF 専務理事、経済回復の確保に向け、世界レベルでの協調を求める

IMF サーベイ・オンライン

2012年7月6日



東京・新宿。IMF 専務理事は、日本の結束と多国間主義を称賛した。（写真：Radius Images/Corbis）

- 危機克服には、世界レベルでの協調が不可欠
- 優先分野：弱い国家財政ポジション、弱い銀行、低成長
- ラガルド氏、危機の間の日本のリーダーシップを称賛

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、世界金融危機に起因する諸課題に対処し安定性と成長を今後確保するためには、国際社会の協働が不可欠だと述べた。

ラガルド専務理事は、アジア 3 カ国歴訪の最初の訪問地である東京で行った基調演説において、今日の相互に結びついた世界では、国内の出来事のみを向けることは許されないと述べた。

[ラガルド氏](#)は「現下の危機には国境など関係ない。我々全てのドアを叩いているのが、この危機なのだ」とし「間違えてはならない、これは、世界危機なのだ」と指摘した。

欧州を越えた危機

ラガルド氏は、ここ数ヶ月間で世界経済の見通しが悪化したと述べた。先進国・新興市場国ともに、経済活動が減速している兆候が見られる。

IMF は 7 月 16 日に、世界経済の見通しを発表する予定である。世界経済の成長率は、4 月の[世界経済見通し](#)の予測より若干弱まると予測される。

ラガルド専務理事は、欧州の債務危機の安定化に向け重要な措置が取られたとの認識を示す一方で、断固たる措置を継続しなければ、安定性と成長への悪影響は、[欧州](#)のみならず世界レベルで顕在化するだろうと警鐘を鳴らした。

また、同氏は世界経済が共通して直面している危機に対処するための解決策は「協調を基盤としたものでなければならない」と述べた。

IMF のリサーチは、主要 20 カ国・地域グループ（G20）参加国間で政策協調を強化することで、中期的に世界の GDP が 7% 上昇しまた 3,600 万人分の雇用を創出する可能性があるとしている。

ラガルド氏は、「弱い政府、弱い銀行、そして弱い成長という現下の危機の大きな連鎖を断ち切る」ために対応が必要な分野を明確に示した。弱い政府とは、弱い財政ポジションおよび高い公的債務を抱える一部の先進国を示している。

各国は、金融部門の健全性の回復に努めながら、公的債務の問題に果敢に取り組む必要がある。加えて、労働、サービス、あるいは製品市場などにおける構造改革も必要だ。

地球市民としての日本

ラガルド専務理事は、日本が IMF に加盟してからの 60 年間および直近の危機で示した、結束の精神と多国間主義を称えた。

2008 年に続き今年はじめ、他国に先駆け IMF の資金基盤の強化のための融資に名乗りすることで、日本は世界経済の崩壊という深刻な事態の回避に貢献したとして、同専務理事は「世界経済が最も深刻な状態にある時、日本は、世界の仲間と共にあった」と述べた。

日本は、IMF の譲許的融資および技術支援とキャパシティ・ビルディング（能力開発）への最大の拠出国であり、また、IMF の奨学金プログラムを通しこれまで 660 名以上を支援してきた。

ラガルド氏は、10 月に東京で開催される、[IMF・世界銀行年次総会](#)を心待ちにしていると述べた。

「グローバルなチャレンジへのグローバルなソリューション（世界レベルの課題への世界レベルの解決）を追求するなか、世界の全ての視線が日本に集まることになる」

アジア訪問

ラガルド専務理事は、4 日に渡る日本滞在の 2 日目に演説を行ったが、その前には、日本の安住淳財務相、日銀の白川方明総裁、および野田佳彦首相などと会談を行った。

演説の後に、同専務理事は日本の女性リーダーの同国の経済的成功への貢献に敬意を表すべく、非公式な夕食をともにする予定である。土曜日には、慶應義塾大学の学生を対象にした対話集会を開くことになっている。

ラガルド氏は、日本に引き続きインドネシアを訪問、同国の高官と会談を行う。インドネシアの首都ジャカルタに 3 日間滞在したのち、タイに移動し IMF、アジア開発銀行およびタイ政府が主催するセミナー「より安定した世界経済制度へ」に参加する予定となっている。